

2008年の台風

発生数が少なく、日本への上陸はなし

1. 概要

2008年（平成20年）に発生した台風は22個（平年値26.7個）と平年値を下回った。5月には4個発生したが、多くの台風が発生する7～10月の発生数が12個（平年値18.5個）にとどまった。

日本への接近数は9個（平年値10.8個）、本土（北海道、本州、四国、九州）に接近した台風は3個（平年値5.2個）といずれも平年値を下回った。また、日本への台風上陸なし（平年値2.6個）は2000年（平成12年）以来のことで、1951年（昭和26年）の台風統計開始以降4回目となった。第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風（本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする）のうち、主な台風について以下に概要を示す。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、气象台や測候所などのときはその官署名を、アメダス地点の場合

は都道府県名、市町村名及び地点名（地点名が市町村名と同じ場合は省略）とした。また、時刻については、全て日本時で表記した。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、総務省消防庁等発表の資料も使用した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第2号 (Rammasun)

5月7日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、8日03時に台風第2号となった。台風は向きを北へ変えて勢力を強めながら進み、10日21時に同海域で勢力が最大となった。その後、台風は勢力を弱めながら日本の南海上で北東へ進み、13日09時に八丈島の南東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は東北東へ進み、14日21時に日本の東海上で消滅した。

八丈島では、13日に暴風となり、農作物への被害が発生した。

(2) 台風第3号 (Matmo)

5月14日15時にルソン島の東海上で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、15日21時に沖縄の南海上で台風第

第1表 2008年の台風発生数、日本への上陸数、日本への接近数。

項目	月	月												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
平成19年 (2007年)	発生数				1	1		3	4	5	6	4		24
	上陸数							1	1	1				3
	接近数					1		1	4	3	3			12
平成20年 (2008年)	発生数				1	4	1	2	4	4	2	3	1	22
	上陸数													0
	接近数					3	1	2	1	2	1			9

(注) ・平年値は、昭和46年（1971年）～平成12年（2000年）の30年平均。

・日本への接近は2か月にもたがることがあり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出た場合は「通過」とする。

接近 台風の中心が、日本の海岸線から300 km 以内に入った場合を「接近」という。

第2表 2008年に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値			熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外で最初に確認された日時						
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧	風速	強風域半径	月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経			
1	Neoguri	4 13 09	8.6	128.0	4 15 15	10.8	116.3	4 18 03	960	4 18 15	40	4 18 03	E: 310 W: 190	4 20 03	24.5	113.9	TD	4 20 03	24.5	113.9
2	Rammasun	5 7 09	7.8	133.3	5 8 03	8.5	131.6	5 11 03	915	5 11 03	55	5 11 09	SE: 500 NW: 330	5 13 09	31.8	142.2	L	5 14 15	35.5	152.2
3	Matmo	5 14 15	16.3	123.8	5 15 21	20.8	126.8	5 16 15	992	5 16 21	25	5 16 21	E: 330 W: 240	5 17 09	27.2	140.9	TD	5 17 09	27.2	140.9
4	Halong	5 14 21	11.8	116.9	5 16 15	14.4	117.5	5 17 21	975	5 19 18	30	5 17 21	330	5 20 21	31.9	142.5	L	5 24 15	51.3	160.1
5	Nakri	5 26 15	10.5	140.4	5 27 15	14.3	137.6	5 30 09	930	5 30 15	50	5 30 09	SE: 330 NW: 220	6 3 15	32.8	142.3	L	6 6 09		域外
6	Fengshen	6 18 03	8.4	134.2	6 19 09	9.7	130.9	6 21 09	945	6 21 15	45	6 21 15	W: 300 E: 220	6 25 15	23.6	113.6	TD	6 27 09	27.0	115.4
7	Kalmaegi	7 13 15	20.1	126.3	7 15 15	17.9	123.9	7 17 18	970	7 17 18	35	7 18 21	SE: 370 NW: 220	7 19 03	26.9	119.7	TD	7 24 15	47.1	145.0
8	Fung-wong	7 24 09	21.7	133.2	7 25 15	21.9	130.7	7 28 06	960	7 28 06	40	7 29 03	E: 560 W: 390	7 29 21	28.2	117.2	TD	8 1 03	34.7	116.4
9	Kammuri	8 3 21	18.9	120.5	8 5 09	20.0	116.2	8 6 15	975	8 6 21	25	8 6 21	SE: 440 NW: 280	8 8 03	21.3	105.7	TD	8 8 15	21.4	103.0
10	Phanfone	8 9 21	27.3	151.4	8 10 15	30.8	155.9	8 11 03	996	8 11 03	25	8 11 03	SE: 300 NW: 190	8 11 15	41.7	164.5	L	8 12 03	44.3	167.4
11	Vongfong	8 14 03	23.7	132.6	8 15 15	30.2	135.5	8 18 03	990	8 18 03	25	8 17 09	SE: 300 NW: 260	8 18 09	44.1	168.5	L	8 19 03		域外
12	Nuri	8 17 15	15.5	138.6	8 18 03	15.7	135.1	8 21 03	955	8 21 03	40	8 21 03	S: 440 N: 330	8 23 09	23.1	112.4	TD	8 23 09	23.1	112.4
13	Sinlaku	9 8 09	15.4	126.6	9 9 03	16.7	125.7	9 11 21	935	9 12 18	50	9 14 06	S: 440 N: 330	9 21 09	35.0	152.8	L	9 23 21	34.3	169.7
14	Hagupit	9 17 21	16.1	141.2	9 19 21	14.0	132.9	9 24 03	935	9 24 03	45	9 23 03	520	9 25 09	22.3	106.2	TD	9 26 03	22.3	103.2
15	Jangmi	9 24 09	11.8	137.9	9 24 21	12.6	136.5	9 28 06	905	9 28 06	60	9 28 09	460	10 1 09	29.9	130.4	L	10 5 09	25.1	141.1
16	Mekkhala	9 28 03	14.4	112.9	9 29 09	16.2	111.4	9 30 09	990	9 30 09	25	9 30 09	N: 200 S: 150	9 30 21	19.0	103.0	TD	9 30 21	19.0	103.0
17	Higos	9 29 03	7.9	134.4	10 2 09	15.3	116.3	10 3 09	996	10 3 09	20	10 3 09	170	10 3 15	18.2	110.9	TD	10 6 15	23.4	116.5
18	Bavi	10 18 09	21.5	151.4	10 19 15	26.6	148.4	10 20 15	992	10 20 15	25	10 20 15	E: 330 W: 150	10 20 21	38.0	154.0	L	10 22 21		域外
19	Maysak	11 5 21	8.4	127.8	11 7 15	13.7	117.1	11 9 09	985	11 9 09	25	11 9 09	NE: 330 SW: 190	11 9 21	16.9	116.3	TD	11 14 03	11.7	110.6
20	Haishen	11 15 03	22.9	146.4	11 16 03	25.6	149.7	11 16 15	1004	11 16 15	20	11 16 15	SE: 240 NW: 150	11 17 21	31.4	160.2	L	11 19 09		域外
21	Noul	11 15 03	8.4	121.9	11 16 21	10.7	113.4	11 17 09	994	11 17 09	20	11 17 09	170	11 17 21	11.9	107.9	TD	11 17 21	11.9	107.9
22	Dolphin	12 11 15	12.5	145.2	12 13 03	14.0	138.1	12 16 15	970	12 16 15	35	12 16 15	N: 390 S: 280	12 18 21	23.4	140.5	L	12 19 03	24.1	141.5

表中の日はすべて日本時 (JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5 m/s 単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速が概ね15 m/s 以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

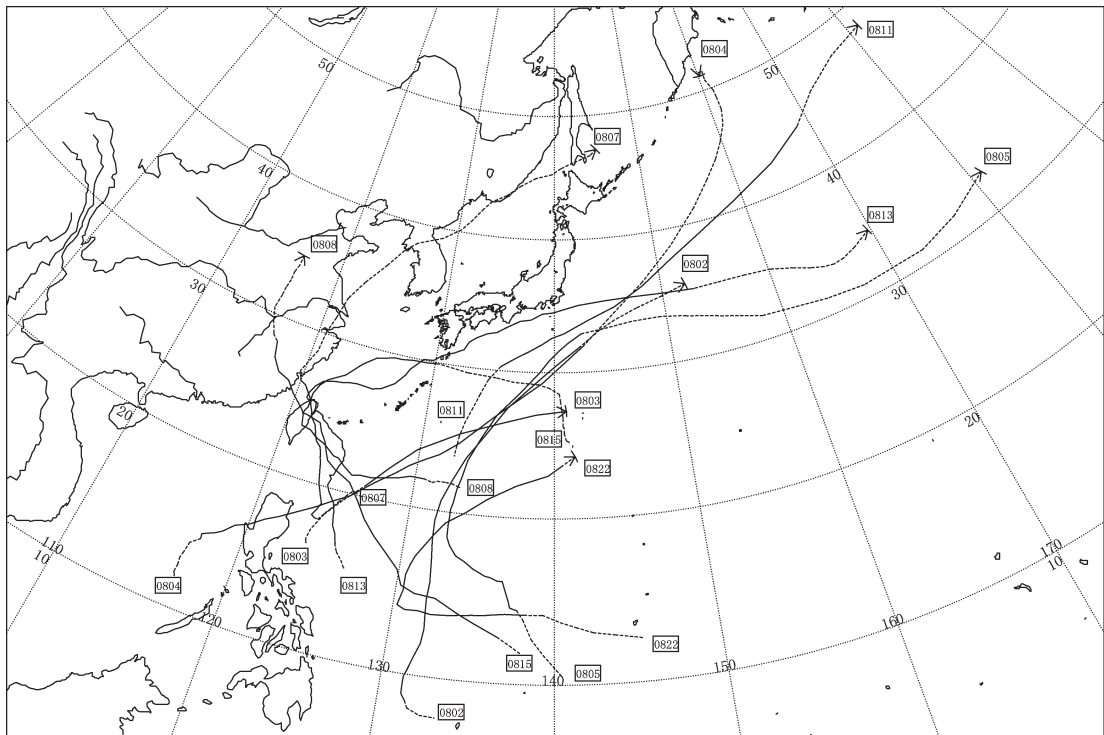
域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

第3表 2008年に日本に影響した台風の概要表.

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500 km に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本の海岸線から300 km 以内に入った場合)			上陸, 通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
2	5/11	5/13	沖縄地方, 小笠原諸島, 伊豆諸島	5/13	5/13	伊豆諸島	上陸または通過せず
3	5/15	5/17	沖縄・奄美, 小笠原諸島	5/16	5/17	沖縄地方, 小笠原諸島	上陸または通過せず
4	5/19	5/20	沖縄地方, 小笠原諸島, 東海地方, 関東地方, 伊豆諸島	5/19	5/20	沖縄地方, 伊豆諸島	上陸または通過せず
5	6/1	6/3	沖縄地方, 小笠原諸島, 東海地方, 関東甲信地方, 伊豆諸島	6/3	6/3	伊豆諸島	上陸または通過せず
7	7/16	7/18	沖縄地方	7/17	7/18	沖縄地方	上陸または通過せず
8	7/25	7/29	沖縄地方	7/27	7/28	沖縄地方	上陸または通過せず
11	8/15	8/16	九州南部, 四国地方, 近畿地方, 東日本, 東北地方	8/15	8/16	近畿地方, 東海地方, 関東地方, 伊豆諸島	上陸または通過せず
13	9/10	9/20	沖縄・奄美, 西日本, 東日本, 東北地方	9/11	9/20	沖縄・奄美, 西日本, 東日本, 東北地方	上陸または通過せず
15	9/27	10/1	沖縄地方, 九州南部・奄美地方, 九州北部地方, 四国地方	9/28	10/1	沖縄地方, 九州南部・奄美地方, 九州北部地方	上陸または通過せず
22	12/18	12/18	小笠原諸島				上陸または通過せず

* 台風の中心が日本の海岸線から300 km 以内に入った場合を「日本に接近した台風」という。ただし、現在は気象官署からの距離で計算している。

* 台風の中心が日本から概ね500 km に入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。



第1図 2008年に日本に影響を及ぼした台風の経路図.

3号となった。台風は東北東へ進みながら勢力を強め、16日15時に日本の南海上で勢力が最大となった。その後、台風は向きを東へ変えながら勢力を弱め、硫黄島の北海上で17日09時に熱帯低気圧に変わり、17日15時に消滅した。

(3) 台風第4号 (Halong)

5月14日21時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は北へ進み、次第に向きを北東へ変えながら、16日15時に台風第4号となった。台風は勢力を強めながら進み、ルソン島の西岸沖で勢力が最大となった。その後、台風はルソン島の北部に上陸して一旦勢力が弱まったが、ルソン島を通過後、再びゆっくりと勢力を強めて、沖縄の南海上へ進んだ。台風はその後も北東へ進み、徐々に勢力を弱め、20日21時に八丈島の南東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は日本の東海上を北東へ進み、24日21時にカムチャツカ半島の南東海上で消滅した。

(4) 台風第5号 (Nakri)

5月26日15時にヤップ島の東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、27日15時にヤップ島の北海上で台風第5号となった。台風はゆっくりと北西へ進みながら勢力を強め、29日21時に勢力が最大となった。台風は6月1日にかけて勢力を弱めながら向きを北へ変え、沖の鳥島の西海上を通過した。台風は2日の午前中、再びわずかに勢力を強め、日本の南海上を北東へ進んだ。その後台風は勢力を弱め、3日15時に八丈島の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は東へ進み、6日09時前に経度180度線を越えた。

(5) 台風第7号 (Kalmaegi)

7月13日15時にフィリピンの北東海上で発生した熱帯低気圧は南西へ進み、15日15時に台風第7号となった。台風は向きを北へ変え、17日には先島諸島の南海上を北西に進み、強い勢力となった。その後、夜には台湾に上陸し、19日03時に中国の南東部で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は向きを北東へ変えて黄海を進み、20日21時に温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は朝鮮半島を通過後、24日21時にオホーツク海で消滅した。

沖縄県八重山地方の海上では波の高さが6mを超える大しけとなり、18日には与那国町与那国島で最大瞬間風速27.3m/sが観測された。このため、離島航路や航空機の欠航などの交通障害や農業被害が発生し、与那国町の一部では停電被害があった。

(6) 台風第8号 (Fung-wong)

7月24日09時に南大東島の南海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、25日15時に台風第8号となった。台風は勢力を強めながら沖縄の南海上を西に進み、27日には強い勢力となり先島諸島の南海上を北西に進んだ。台風は28日09時前に台湾に上陸して勢力を弱め、台湾を通過後、華南へ上陸した。その後台風は北へ進み、29日21時に熱帯低気圧に変わり、8月1日09時に消滅した。

沖縄県八重山地方では暴風や大雨となり、海上では波の高さ8mを超える大しけとなった。与那国町与那国島では28日に最大瞬間風速37.0m/sが観測され、総雨量は石垣市川平で205.0mmなどとなった。このため、離島航路や航空機の欠航などの交通障害や農業被害、停電の被害が発生した。

(7) 台風第11号 (Vongfong)

8月14日03時に南大東島の南東海上で発生した熱帯低気圧は北北東へ進み、15日15時に日本の南海上で台風第11号となった。台風は向きを東北東に変え、八丈島の南海上を進み、16日15時に日本の東海上で勢力が最大となった。台風はその後も東北東へ進み、18日09時に千島の東海上で温帯低気圧に変わり、19日03時前に経度180度線を越えた。

16日から17日は、日本海沿岸から東北地方へのびる前線が九州地方から本州南岸まで南下し、台風によってもたらされた暖かく湿った空気の流れ込みにより大雨となった関東地方をはじめ、九州地方、中国地方、北陸地方で大雨となった。

各地で土砂災害が発生したほか、富山県、栃木県を中心とした住家の浸水被害や、広島県、関東地方での落雷による大規模な停電が発生した。また、16日には栃木県鹿沼市で局地的な大雨により東北自動車道のアンダーパスが冠水し、乗用車が水没して1名が死亡する事故が発生した。

(8) 台風第13号 (Sinlaku)

9月8日09時にルソン島の東海上で発生した熱帯低気圧は北北西へ進み、9日03時に台風第13号となった。台風は進路を北北西に保ったまま勢力を強め、12日には先島諸島の南海上を非常に強い勢力を維持したままゆっくりと北西に進んだ。13日には与那国島近海を通過し、台湾北部へ向かった。その後、東シナ海で一旦勢力を弱めたが、18日には九州の南海上で再び暴風域を伴い、20日朝にかけて四国沖から本州南岸を東へ進んだ。台風は21日09時に日本の東海上で温帯低気

庄に変わり、24日03時に日本のはるか東海上で消滅した。

沖縄県八重山地方では大雨や暴風と、海上では波の高さが9 mを超える猛烈なしけが長時間にわたり、与那国町与那国島では13日に62.8 m/sの最大瞬間風速と、9月の月間平均雨量(242.3 mm)の3倍を超えて観測史上1位を更新する769.5 mmの24時間雨量が観測された。また、台風の通過した屋久島、種子島や伊豆諸島などでも暴風となり、西日本から東日本の太平洋側では前線の影響も加わり大雨となった。各地の24時間雨量は、18日には鹿児島県肝付町甫与志岳で427.0 mm、19日には三重県尾鷲市で759.0 mm、宮崎県日南市油津で346.0 mmなどとなった。

八重山地方や九州南部を中心に、大雨や暴風による住家損壊や浸水害、土砂災害、農業被害、大規模な停電が発生した。住家被害は全壊7棟、半壊・一部損壊75棟、床上浸水87棟、床下浸水613棟となった。また、高波による港湾施設被害や離島航路、航空機の欠航などの交通障害も発生した。

(9) 台風第15号 (Jangmi)

9月24日09時にヤップ島の北海上で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、24日21時にフィリピンの東海上で台風第15号となった。27日には猛烈な勢力となり沖縄の南海上に北西へ進んだ。28日には勢力を維持したまま先島諸島の南海上に北西へ進み、台湾に上陸後、向きを北に変えて勢力を弱めた。その後、台風は東シナ海を北東へ進み、10月1日09時に九州の南海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は2日の午後遅く

に、速度を遅くしながら向きを南へ変え、5日15時に小笠原諸島近海で消滅した。

沖縄県八重山地方では、28日から29日にかけて暴風となり、与那国町与那国島では最大瞬間風速49.2 m/sが観測された。また、28日には大雨となり、海上では波の高さが9 mを超える猛烈なしけとなった。九州の南海上には27日から10月1日にかけて前線が停滞し、29日以降は台風からの暖かく湿った空気の流れ込みにより前線の活動が活発となった。このため、九州南部を中心に大雨となり、総雨量は鹿児島県さつま町さつま柏原で379.0 mm、宮崎県宮崎市青島では354.0 mmなどとなった。

この大雨や暴風により、各地で農業被害が発生し、九州南部では土砂災害や林業被害が発生した。また、沖縄県では離島航路、航空機の欠航などの交通障害や停電などが発生し、八重山地方を中心に高波による港湾施設被害も発生した。

(10) 台風第22号 (Dolphin)

12月11日15時にグアム島の南海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、13日03時にマリアナ諸島の西海上で台風第22号となった。台風はその後西へ進み、15日09時に向きを急に北へ変え、16日03時にフィリピンの東海上で勢力が最大となった。台風は次第に勢力を弱めながら向きを東北東へ変え、小笠原諸島の南海上で、18日21時に温帯低気圧に変わり、19日09時に消滅した。

(気象庁予報部予報課)